

平成31年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が将来にわたって主体的に学び続ける意欲や探究心を高め、自らを伸ばさせることができるよう、教育課程編成や授業改善に取り組む。 学校行事や生徒会活動等を充実させ、自立と社会参加に必要な力の育成を図る。 	<p>○多様な学習ニーズに応え、在籍生徒全員の学習につなげる自立を促す積極的な支援を学務グループなどが中心となり、学校全体で取り組む。</p>	<p>(1)活動率向上を目標に、修悠館マイページ(e-ラーニングシステム)を活用しながら、個々の状況を把握し、支援計画(面談、履修計画、トライ教室、レポート完成講座など)を立てる。</p> <p>(2)単位修得率を向上させるため、グループや教科の連携を図り、スムーズなレポート添削・返却をする共通認識を図る。</p>	<p>(1)担任や副担任が生徒の学習活動に対して積極的なアプローチをする機会をグループで設定できたか。</p> <p>(2)各グループや教科の協力で、早期のレポート添削・返却が可能となる時間確保ができたか。</p>					
2 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 多様化する生徒の実態を踏まえ、学びたい生徒が安心して学ぶことができる環境を作る。 生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。 	<p>○学校生活のルールを、多様化する生徒の状況に応じたさまざまな方法で周知することで、安心安全な学習環境を保つ。</p> <p>多様な生徒の教育的ニーズに即した、必要な支援に取り組む。</p>	<p>(1)いじめ等防止基本方針に基づいた様々な取組を適宜行う。</p> <p>(2)情報の適切な発信と並行して、生徒が情報を受け取りやすい環境の整備を行うことで、生徒指導の未然防止と学校ルールの徹底に努める。</p> <p>(3)多様化する生徒の実態を把握し、データベースの情報を活用することで教育的ニーズに即した支援体制を充実させる。</p> <p>(4)SC、SSW、精神科校医による個別相談会、保護者教育相談会のPRを増やし、相談支援体制を活性化させる。</p>	<p>(1)いじめ等防止基本方針に基づいた取組を適切な時期に行い、職員間で情報共有ができたか。</p> <p>(2)特別指導件数を減らすことができたか。</p> <p>(3)職員がデータベースを定期的に閲覧し、生徒情報の追加等の活用を促すことができたか。</p> <p>(4)SSW、教育相談コーディネーター、SC、養護教諭の相互連携による相談支援体制を生徒や保護者、職員の要望や意見を取り入れて整理することができたか。</p>					

	視点	4年間の目標 (平成 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が社会的・職業的自立に向けたキャリア発達を意識できる就労支援・進学支援の充実を図る。 ・インクルーシブ教育を推進し、多様な生徒の自らを伸長させる可能性を引き出す支援体制の構築を図るとともに、生徒一人ひとりがお互いを認め合う人権意識の涵養に努める。 	<p>○適切な職業観・社会観を養うキャリア教育を充実させるとともに、生徒のニーズ・実情にマッチした進路指導・支援を行う。</p> <p>生徒の自立と社会参加を実現するため、関係機関との連携をより強くする。</p>	<p>(1)「総合的な探究/学習の時間」やインターンシップ等のキャリア教育、弁護士を招いての出前授業・模擬投票等のシチズンシップ教育を充実させる。</p> <p>(2)各担任やアドバイザーとの連携を強化しつつキャリアガイダンスルームの活用を促し、生徒個々のニーズや実情に応じた進路相談の充実を図る。</p> <p>(3)修悠館サテライトの広報に一層力を入れ、生徒の継続的利用を促す。</p> <p>(4)多様な教育的ニーズを有する生徒個々の実態に応じた支援を充実させるため、関係機関とのネットワークを広げ、就労支援や社会参加へつなげる。</p> <p>(5)通級指導の導入に向けて個別の支援計画の活用を促進する。</p>	<p>(1)「総合的な探究/学習の時間」、弁護士を招いての出前授業、模擬投票等をさらに充実したものにできたか。</p> <p>(2)・キャリアガイダンスルームの整備を進め、卒業予定者を含む全生徒の利用を促進できたか。</p> <p>・一回でも受験した生徒が全員内定・合格することができたか。</p> <p>(3)修悠館サテライトの有効な利用をさらに促進できたか。</p> <p>(4)様々な関係機関とのネットワークを活用するため、見学会や実習等を行うことができたか。</p> <p>(5)個別の支援計画の活用のために作成と活用方法について整理し、特別支援教育の理解を深めることができたか。</p>					
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や外部機関との連携・協働を推進し、地域を信頼するとともに、地域に信頼される学校づくりを進める。 	<p>地域貢献活動や地域の行事を通して、地域の方々と交流を深めることによって、生徒が地域に対して愛着を持ち、自己有用感を高められるように努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との情報交換を密にして、より多くの生徒が部活動や委員会、ボランティア活動などのさまざまな場面で活躍できるよう効果的な広報を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な広報を行って、生徒の積極的な活動を促し、地域のイベントや地域貢献活動に参加した生徒の自己有用感を高めることができたか。 					
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が将来にわたって自らを伸長させる可能性を最大限に引き出すための、教員の能力向上や意識改革を図る。 ・すべての職員が教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校文化を形成する。 	<p>修悠館マイページ(e-ラーニングシステム)の内容の充実を進めると共に、スクーリングでの情報機器の利活用も進めていく。</p> <p>教職員と生徒共に防災意識の向上とそれに伴う環境整備の充実に取り組む。</p>	<p>(1)活用しやすいコンテンツ作成や効率的なスクーリングが可能なICT機器と利用環境の整備をする。</p> <p>(2)修悠館マイページ(e-ラーニングシステム)を利用する生徒が増えるよう広報活動とサポートを行う。</p> <p>(3)教職員と生徒が共に日常的に防災に対する意識醸成ができるような環境整備を実施し、実践的な防災訓練を行う。</p>	<p>(1)スクーリングでのICT機器の利用回数が増加したか。</p> <p>(2)修悠館マイページ(e-ラーニングシステム)が支障なく稼働し、生徒の利用状況が増加したか。</p> <p>(3)全教職員が主体的に防災活動・避難誘導できる訓練内容であったか。生徒の防災意識が向上したか。</p>			+		